

第42回全国消防殉職者慰霊祭

第42回全国消防殉職者慰霊祭は、岸田内閣総理大臣、鈴木総務大臣、松村防災担当大臣代理星野内閣府副大臣をはじめとするご来賓の方々と新たに合祀された御霊のご遺族、都道府県のご遺族及び全国消防関係者のご参列のもと、9月14日（木）ニッショーホール（港区東新橋）において、執り行われました。

日本消防協会では、昭和57年以来、毎年、全国消防殉職者慰霊祭を行っており、本年は3柱（みはしら）の御霊が新たに合祀され、明治5年からの消防殉職者等の御霊は、5,787柱となりました。

今年の慰霊祭は従来と近い形で開催することができ、全国から多くのご遺族の方々にご参列を賜り、約350名のご参列者のもとで挙行することができました。式典では、内閣総理大臣、総務大臣及び遺族代表の「追悼のことば」を頂き、その後、参列者の皆様による献花が行われ、厳粛のなかに執り行われました。



【式辞 日本消防協会 会長 秋本敏文】

ご遺族の方々をお迎え、岸田内閣総理大臣、鈴木総務大臣、星野内閣府副大臣をはじめとする方々のご列席を頂きまして、これより第42回全国消防殉職者慰霊祭を開催いたします。

今年新合祀の3柱を含めまして、合祀させて頂いている御霊は5,787柱であります。皆様、火災、さまざまな自然災害等において、地域の安全を守り、住民の皆様の生命財産を守る消

防使命達成のため、全力を尽くし、尊くも、その職に殉じられた方々であります。衷心より敬意を表し、深く感謝申しあげ、安らかなご冥福をお祈り申しあげます。ご遺族の方々には申しあげる言葉がない思いではありますが、どうぞお心穏やかなお幸せな日々をお過ごし頂きますようお願い申し上げます。

近年、地球規模の環境変化を背景としているのでしょうか、従来とは様相を異にする、思いがけない大規模な、さまざまな災害が発生しております。そのなかで被害発生を防止し、避難、消火、救助などを実行する消防活動は益々重要となり、その実行過程での困難は益々大きくなっていると考えられます。

消防は、どのような状況にありましても、使命達成に最善を尽くさなければなりません。ここでは、事故なく、無事に活動することが使命発揮の基礎となります。これまでも関係者は事故防止に努力しておりますが、殉職者慰霊祭に当たり、事故防止への決意を新たにいたします。ご参列の方々も同様のお気持ちであると存じます。

本日は、きわめてご多忙のなかを岸田内閣総理大臣をはじめとする方々のご参列を頂き、また多数の方々にご参列頂きまして、このように哀悼の誠を込めた消防殉職者慰霊祭を開催することができました。このことに深く感謝申し上げます。

最後に、職に殉じられた御霊に対し、重ねて心からの敬意を表し、深く感謝申し上げますとともに、ご遺族の方々のお幸せな日々をお祈り申しあげまして、式辞とさせていただきます。



秋本会長による式辞



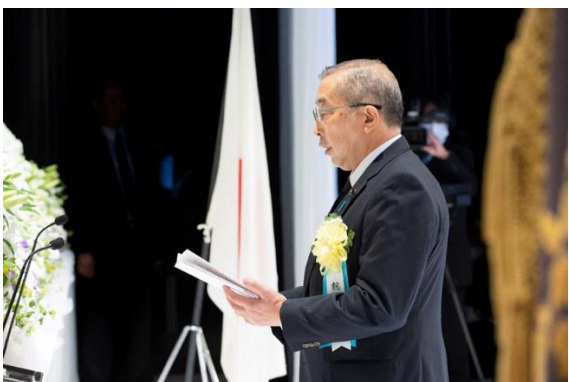
花田副会長による開式のことば



御霊の奉納



岸田内閣総理大臣による追悼のことば



鈴木総務大臣による追悼のことば



遺族代表による追悼のことば



秋本会長による献花



遺族代表による献花



岸田内閣総理大臣による献花



鈴木総務大臣による献花



松村防災担当大臣代理 星野内閣府副大臣による献花



新合祀遺族による献花



参列者による献花



参列状況



鎮魂の歌（木遣り）【江戸消防記念会】



秋本会長あいさつ



川上副会長による閉式のこたば

